

周作クラブ会報

(第82号)
2021年2月25日発行

周作クラブ

◆主な記事◆

新春特別企画 当選者発表	1面
原稿再録	2面
続報『影に対して』	3面
私が選ぶ遠藤周作 この作	4面
連載・樹座30年⑧	5面
長崎文学館便り	6面
周作クラブ長崎便り	7面
お知らせ欄	8面

新春特別企画——当選者発表

周作クラブも特別な新年 没後25年、生誕100年にむけて

昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で、世界中が試練の年となりました。周作クラブでも、開催できたのは新年会のみで、文学セミナー、遠藤文学原点の旅、そして周作忌までも残念ながら中止となりました。

そんな不安な日々の中、長崎市遠藤周作文学館で純文学の未発表原稿が発見されるという大きなニュースがありました。また、今年には遠藤周作没後25年、再来年令和5年は生誕100年と大きな節目の年を迎えることになり、周作クラブも現在、その準備に入っております。

毎年新年初の周作クラブ会報は、「新年会報告」でスタートしてまいりました。しかし今年の新年会は中止となりましたので、前号で既出の通り、「サブライズ企画2021新年の福引」を実現いたしました。新年会名物の大抽選会を、全会員対象に実施する特別企画です。先日、幹事・委員有志(4名)で「福引アプリ」を使用して厳正な抽選を行い当選者が決定しました。

遠藤周作の新刊『影に対して』新潮社発行(直筆原稿コピー付き) 当選者(敬称略)、青木浩乃(三重県) 柿本千登勢(静

岡県) 鹿島健一(兵庫県) 小林千三(三重県) 坂下千恵美(福井県) 高木香織(東京都) 玉谷直實(奈良県) 都竹浩志(岐阜県) 前田種男(兵庫県) 宮崎信之(東京都) 敬称略以上10名、遠藤周作文学館開館20周年企画展図録当選者(敬称略)

は、浅井睦美(千葉県) 伊藤梨紗(神奈川県) 大熊久仁子(岡山県) 小野肇美(東京都) 鈴木元(東京都) 竹内廣直(東京都) 田中美知恵(福岡県) 林敦子(高知県) 福見毅(千葉県) 藤森和子(岡山県) 以上10名計20名の方となりました。それぞれの方に賞品をお送り致しました。(当選者からのメッセージをお知らせ欄に掲載)

コロナ禍の周作クラブの活動としては、年に4回の会報発行の他に、リモートでの企画を検討しております。詳細は会報「お知らせ欄」をご覧ください。会員の皆様には、遠藤先生の「マイナスの裏には必ずプラスがある」という言葉を心に、笑顔で集える時までどうぞお元気で過ごしてください。自粛期間に改めて遠藤作品に触れる方も多いかと思えます。会報に投稿、リモート企画等、様々な形でのご参加を幹事・委員一同お待ちしております。

【編集部・清水優子】

訃報 遠藤順子さん

(遠藤周作夫人)

去る1月16日 早朝、遠藤順子さんが入院先の病院で亡くなりました。93歳だった。



1週間ほど前から発熱が続き、容体が徐々に悪化したもので、診断名は心不全。密葬とミサは同日19日、近親者によつてすでに済まされた。

略歴

遠藤順子さんは1927(昭和2)年、実業家・岡田幸三郎の長女として東京に生れている。慶應義塾大学仏文科を卒業するが、在学中に遠藤周作と出会い、1955(昭和30)年に結婚(遠藤周作の芥川賞受賞は、結婚2カ月前の7月)、翌年に長男・龍之介さんを出産した。

以後は主婦として作家・遠藤周作を支えるが、夫の没後に執筆活動を開始、最初の著書『夫の宿題』(1998)はベストセラーとなり、テレビドラマ化もされた。他にも『再会——夫の宿題 それから』(ともにPHP研究所)、『夫・遠藤周作を語る』(文春文庫)、『ビルマ独立に命をかけた男たち』(PHP研究所)がある。

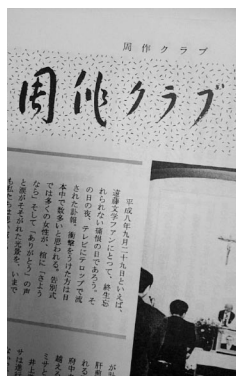
また医療問題についての講演活動をされるかたわら、生命尊重センターの運動に参加し、「円ブリーチ基金」理事長として『産みたい母親』を援け、胎児の命を守る活動にも携わった。

遠藤周作文学館の建設地を長崎県外海町(現・長崎市)に決定したのも順子さんだった。西洋から学ぶことで育った遠

藤文学を、ふたたび西洋に向けて発信する——その基地としての文学館が真西を向いて建てられ、はるか海の向こうにヨーロッパを見据えているのも、角力灘に面した断崖上の文学館が比翼の形をしているのも、建築家とともに順子さんの描いたイメージだった。

周作クラブとの関わり

2000(平成12)年、「周作クラブ」創設にともなって刊行された「会報」の第一号(2000.9.14)には題字を揮毫(写真)、記念エッセイ「発足に寄せて」も寄稿している。その中で「クラブを通じて、人間の弱さに対する共感というイメージが21世紀にも受け継がれるよう祈っています」と会の目指す方向を示した。



さらに会の活動にも積極的に参加し、とくに毎年行われる「遠藤文学・原点の旅」には、長崎・五島や島原・熊本、神戸・夙川、仙台・石巻など、多くの旅に参加して会員たちとの交友を重ねた。また、会員の新生児誕生にあたっては名付け親となったり、カトリック受洗に際しては代母を務めたりした。

遠藤順子さんの墓所は、夫・遠藤周作の眠るカトリック麹町聖イグナチオ教会になる。ただし、納骨時期の関係で墓参は3月に入ってから願います。

(記/加藤宗哉)

(なお、追悼として次頁に故人のエッセイの一部を再録)